

歴史を生かしたまちづくり

横濱新聞



#24

平成22(2010)年3月10日発行

発行：横浜市
編集協力：一般社団法人横浜歴史資産調査会 (YOKOHAMA HERITAGE)

横浜地方気象台 撮影：米山淳一

山手の景観に溶け込んだ 新旧の「風の塔」

吉田鋼市

(横浜国立大学大学院教授・横浜歴史資産調査会副会長・
横浜地方気象台保存検討会座長・景観検討会座長)

もとの建物を耐震改修保存し、新しい庁舎を増築した横浜地方気象台の改修工事が昨春修了した。設計は安藤忠雄建築研究所、施工は小田急・三木経常建設共同企業体である。新しい建物は一足早く平成19年夏にできあがっていたが、古い建物の保存改修の検討と工事に時間がかかり、調査検討段階から数えると7年間を要した大事業であった。国の施設の工事としてはそれほど大規模とはいえないが、国土交通省関東地方整備局の歴史的な建物の保存活用と景観アセスメントの試行事例の一つとなり、もとの建物の保存のみならず、新旧の建物の山手の景観との調和も慎重に配慮されている。

昭和2年に建てられたもとの建物は神奈川県測候所という県の施設であり、明治29年に海岸通りに建てられた先代の庁舎が関東大震災で焼失したために山手の当地に移って新築されたものである。県から国へ移管され横浜測候所となったのが昭和14年。それ以降は国の施設であるが、昭和32年に測候所から地方気象台になって今日にいたっている。設計は神奈川県営繕管財課(当時)で、大正・昭和戦前期の県の営繕の中心人物、成富又三(1881-1955)の、いまとなって

は唯一の遺構ということになる。そして、残された史料から、成富の下で実際に設計を担当したのが繁野繁造(1897-?)であることがわかる。繁野は三重県宇治山田の出身で、東京府に勤務時代の明治21年に日本大学高等工学校を出て、大正14年から昭和3年まで神奈川県に勤めている。その後は郷里の宇治山田に帰って神宮司庁や神宮皇学館の営繕の仕事をしているが、神奈川県測候所は彼の短い期間の神奈川県在職期間の仕事ということになる。施工は出水組で、現在の大阪・吹田市に本拠を置いていた中堅の施工会社である。震災を期に機敏に東京に出張所を設けたらしく、並みいる大手を退けて落札している。

横浜地方気象台のもとの建物は、先述の保存調査検討中の平成17年に横浜市の文化財に指定されている。その際、外構の石積みの擁壁もあわせて文化財に指定された。この擁壁は、山手が外国人居留地であった時代にしばしば用いられたいわゆるブラフ積みでできており、関東大震災後に積み直されてはいるが、当初の古い石を再度使って積み直されており、古きよき山手の景観への寄与が大きい。今回の工事でも、この擁壁が改修保存された。建物のほうも、当初あった階段塔

の時計や、階段の手摺りの金物も復原されているし、往時の照明器具も再現されている。また、新築の建物の工事中に、いまも水をたたえている深い井戸が見つかったが、その井戸はかつてここにあった米海軍病院で使われたものと見られ、それも保存された。敷地内に展示されている60センチほどの高さの二つの円筒形煉瓦が、その井戸の一部切り取られた井筒である。さらに、米海軍病院時代のものと思われる煉瓦や墓石なども地中から見つかった。建物の工事は、まさに歴史を知る営為である。

古代ギリシアの気象台に相当するアテネの「風の塔」にならって、横浜地方気象台を山手の「風の塔」と呼びたいと思うが、この新旧の「風の塔」は共鳴しつつ、山手の景観の中に溶け込んでいる。古い歴史が詰まったこの場所に、また新しい歴史がつけられたわけである。



建物内部

撮影：米山淳一

横浜市認定歴史的建造物に象の鼻の税関遺構を認定!

2008年5月、翌年の開港150周年にむけて急ピッチで進められる「象の鼻パーク」(中区海岸通1丁目)の整備工事中に、鉄製の線路や転車台の遺構が発見された。象の鼻地区は明治時代に横浜税関が置かれた場所で、明治33(1900)年発行の「横浜税関一覧」にその様子が描かれている。今回認定を受けた「横浜税関遺構 鉄軌道及び転車台」は、明治27(1894)年に敷設された大棧橋・税関構内間鉄道を明治28～29年に拡張整備した際に設置されたものと判断される。これらは大正期まで使用されていたが、関東大震災で大きな被害を受けて放棄された。

その後、戦後には地盤面をかき上げて跡地に東西上屋倉庫が建てられ、遺構は長い間その地下に眠り続けてきたのである。2008年10月に行われた遺構の一般見学会では、わずか半日の公開におよそ1400人が集まった。

発見時は敷地内の3か所で同様の遺構が確認されたが、震災や倉庫基礎のためか破損が著しく、もともと状態の良かった1か所の4基を保全し、広場整備に生かすことになった。軌道幅は1.06m、転車台の鉄部の外径は2.5m。湿気や塩分等による劣化防止のため、鉄部には新たに塗装が施された。また、広場はイベント等にも利

用されるため、遺構は地盤面に合わせて埋め込んだガラス蓋で覆われた。4基はそれぞれ蓋を閉めた状態、内蓋を外した状態、蓋を半分に切った状態、蓋を全て外した状態で展示され、ガラス越しに煉瓦積みの構造体や回転装置、4連の配線システムなどを見ることができる。

これらは横浜港における鉄道による海陸連絡設備の原初形態の一端を伝えるとともに、鉄道技術史上も価値が高い。また、象の鼻地区の「開港の地」という土地の記憶を伝える上で、これが保全、公開されたことは非常に意義のあることである。



左：象の鼻パーク 右上：発見時の転車台 右下：横浜税関遺構 鉄軌道及び転車台

横浜港発祥の地「象の鼻パーク」オープン!

平成21年6月2日、横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間「象の鼻パーク」がオープンした。

象の鼻地区は1854年ペリー提督が2度目の来日で上陸した場所。横浜で最初の本格的な波止場として賑わったが、開港150周年を迎え、横浜を代表する国際的な文化交流エリアとして生まれ変わったのである。

芝生が美しく水辺や夜景が楽しめる「開港の丘」、カフェを併設した文化観光交流の拠点「象の鼻テラス」。日本大通りから港を見通す開放的な「開港波止場」。そして海側

先端には、「象の鼻防波堤」が復元整備された。

象の鼻防波堤は1859年の開港時に築造された突堤を延長したもの。明治初年には「象の鼻」と称されるような形状をしていたと考えられるが、その後幾多の変遷を経ており、今回の再整備ではどの時代の姿に復元するかが大きな課題であった。結果、「象の鼻」と「大さん橋」の関係が初めて構築され、現在のイメージの原型が形成された明治20年代後半の姿に復元することとなった。防波堤そのものの形状も、最もその名前に相応しく象の鼻ら

しい形をしている時期である。新しい石材を用いた「景観保存」だが、出土遺構をそのまま保存した部分や既存石材を再利用した部分を持ち合わせて蘇った。

象の鼻地区は長く一般の立入が制限されていたが、パークのオープン以来、日々多くの人が集まり、新しく開かれた港の空間を楽しんでいる。芝生斜面からは「横浜税関遺構 煉瓦造2階建倉庫」の煉瓦基礎も顔を出し、港を眺めている。開港から150年間、そして未来へ続く時間の重なりを肌で感じていただきたい。

横浜地方気象台保存再生事業

事業企画：国土交通省関東地方整備局営繕部

横浜地方気象台再整備は平成13年から検討を開始。耐震性や業務スペースの問題から全面建替えも検討されたが、歴史的価値の高い庁舎を保全し別棟を増築する計画が採用された。今回の整備で既存棟は鉄骨ブレースの設置等により耐震性を確保、合わせて内外の保全改修を行った。増築棟は現代の気象台業務に必要な機能と面積



改修工事中の横浜地方気象台庁舎

を備えつつ、高さを2階建に抑え、軽やかな屋根が既存棟を引き立てる。工事を終えて、応接室や階段室などが一般公開されている。

旧伊藤博文金沢別邸 再整備を終えて公開

明治31(1898)年に伊藤博文の別荘として建てられたもので、平成18年横浜市指定有形文化財になった。明治期に東京近郊の海浜別荘地として金沢八景が目されていたことを物語っており、屋根を茅葺寄棟とする田舎風の建築は、明治の海浜別邸建築の様相をよく伝えて

いる。改修工事を経て、平成21年10月31日より金沢区野島公園内で一般公開されている。



旧伊藤博文金沢別邸

田畑家住宅 国登録有形文化財に

田畑家住宅主屋(神奈川区白幡上町)が国土の歴史的景観に寄与している建造物として平成22年2月3日付で国の登録有形文化財に登録された。昭和7(1932)年建築、寄棟造で棧瓦葺の和館部と、切妻造スレート葺でドイツ壁の洋館部が並立する。昭和中・後期に一部

改修が加えられているが、昭和前半期の郊外における典型的な洋館付住宅として貴重である。



田畑家住宅

フェリス女学院10号館の外観修復完成

2009年5月28日、横浜市認定歴史的建造物であるフェリス女学院10号館の外観修復工事竣工式が行われた。

修復後のフェリス女学院10号館は、修復前の「白いキューブ」ではなく、落ち着いた明るいベージュ色の外壁をしたより優美な姿に復元された。これは工事の過程で、修復前の白い塗装が、コンクリートの躯体に「はきつけコテ押さえ」で仕上げられたベージュ色の外装に、後から上塗りされたものであることが明らかになったためである。

他にも、スチール製の繊細なサッシは現状の黒色ではなく緑色にされ、パラペットとその上部の彩釉磁器タイルはオリジナルの寸法や色彩を忠実に再現して補修がなされた。また、開口部上部の庇と2階バルコニー先端部はテラゾー(人造石)仕上げであったので、補修が必要な部分についてもテラゾー仕上げを踏襲している。

このように、今回の修復の過程では、建物の形態や素材・色彩などについて可

能ながざり建設時の「オリジナル」な状態にする、という基本方針が細部の施工にまで貫かれ、サッシをはじめとする既存の部材についても当初のものをいかに清掃・補修して使用し続けている。そのことによって、この建物が最近建ったものではなく、70年もの時をこの場所で経たしたことによる「深みや厚み」がおおくと表われているのを感じることができるのだと思う。

「白いキューブ」を見慣れた眼にとっては、むしろ周囲の緑に溶け込む印象が強いベージュ色の全体の姿に最初は驚くことがあるかもしれない。しかし、しばらくするとこの建物が最初はこの姿でこの場所に建てられたことを、徐々に納得してゆくことに気が付くのではないだろうか。設計者のアントニン・レーモンドは、単に当時流行していたモダニズムを後追いしただけでなく、この場所にふさわしい建物を創り出したことが、今回の修復過程でより鮮明になったといえるであろう。

関和明 (関東学院大学教授・横浜歴史資産調査会理事)

なお、今回の修復工事の対象はあくまでも外観に関わる部分に限定されたが、所有者のフェリス女学院は、創立140周年の記念事業として、この建物の新しい活用を検討中とのことである。その先駆けとして「フェリス女学院10号館内装剥しイベント」が、2009年4月11日に開催され、歴史的建造物の保全活用に関心のある学生や研究者、建築実務にたずさ

わっている方々などが、室内の既存塗装を剥する作業に、応募予定をはるかに越えて、多数参加された。このように単なる見学会だけでなく、歴史的建造物の保存活用の活動に実際に体験的に関わる機会が得られることによって、その建物への愛着がさらに広がり、建物の価値への理解がさらに深まることは、大変有意義なことだと思う。



ベージュ色に復元されたフェリス女学院10号館 右上：内装剥しイベントの様子

旧横浜銀行本店別館 文化芸術の新しい拠点に

みなとみらい線馬車道駅近くの旧横浜銀行本店別館(昭和4(1929)年竣工)は、美しい半円形のバルコニーが印象的な銀行建築。2004年から「BankART 1929 Yokohama」として横浜のアート活動の顔となってきたが、2009年5月に文化

芸術創造都市の推進拠点「ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター(YCC)」に生まれ変わった。1階にはカフェも常設され、誰もが歴史、アート、交流を楽しめるスポットである。

旧横浜銀行本店別館



馬車道大津ビル 耐震改修工事完了

昭和11(1936)年竣工の「馬車道大津ビル」が耐震改修工事を終えた。内部の壁厚を増し、耐震スリットを設けるなどの手法で外観への影響を抑え、創建時のマンホールを地下階に残すなど歴史性の継承に努めた。オーナーと入居者に愛されて再生した大津ビル、今後も末永く馬車道の景観に風格を添えてほしい。



馬車道大津ビル



復元されたストロングビル

撮影：米山淳一

ストロングビル復元

平成21年12月、横浜公園の南東側に建設されていたホテルの低層部にストロングビルのファサードが復元された。

もともとは昭和13(1938)年にストロング・エンド・カンパニーの横浜支店として建築されたもので、設計は旧川崎銀行横浜支店(現日本興亜火災馬車道ビル)を設計した横浜ゆかりの建築家、矢部又吉。創建当初の名前のまま存在し続

けた外国商会の建物としても珍しいが、老朽化が激しく平成19年に建替が決定、新しい建物の低層部に外壁を復元することとなった。解体時には、正面玄関のアーチが化粧石板ではなく御影石の石造だったことや、外壁が洗い出し仕上げだったことなどが判明。復元に際しては極力創建時に近づけようと、玄関ドアや窓枠、石材等が再利用された。既に平成19年に横浜市認定歴史的建造物に認定されており、今後も長く横浜の歴史を伝えていくことになる。

“OPEN! HERITAGE in 日本大通り” 開催!

平成21年9月27日(日)、「OPEN! HERITAGE in 日本大通り」が開催された。日本大通り周辺の歴史的建造物を公開するこのイベントに快く賛同し内部を公開したのは、横浜海洋会館、横浜海岸教会、ZAIM(旧関東財務局)、横浜開港資料館、横浜情報文化センター、横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館、横浜市開港記念会館の7館。公開は午後

の半日だけという短い時間であったが、予想を上回る158名の参加があった。当日は内部の公開だけでなく、それぞれの館が建物を个性的に紹介していた。例えば横浜海洋会館では「象の鼻パーク」を一望できる屋上を開放し、横浜海岸教会では見学者のために信者有志が賛美歌を歌ってくれた。またZAIMではアーティストが入居する部屋を公開し、横浜開港記念会館ではボランティアによる案内が行われた。イベントは非常に好評で、参加できなかった市民から「是非もう一度やってほしい」という要望が多く寄せられた。



ZAIMでの受付風景

フランス瓦の謎と魅力

横浜都市発展記念館では企画展「西洋館とフランス瓦——横浜生まれの近代産業」を2010年5月9日まで開催中。アルフレッド・ジェラルドは、現在の元町公園の地に工場を建設し、フランス瓦や煉瓦、土管を製造した実業家。近年の発掘調査の成果をもとに、洋風建築の広がりを支えた黎明期の近代産業の姿を紹介している。



ヨコハマヘリテイジ設立記念シンポジウム

一般社団法人横浜歴史資産調査会では、法人設立を記念して、昨年12月11日に「設立記念シンポジウム——明日につなげよう、みんなのたから 横浜の歴史的資産」を開催した。

歴史的建造物である横浜市開港記念会館(1917年建築・国重要文化財)の講堂で、これまでの歴史資産を、またこれからの歴史を生かしたまちづくりを考えるひとときとなった。

宮村会長の基調講演に続き、米山淳一事務局長の進行で、地域に受け継がれてきた自然・歴史・文化を宝物として守り、楽しみ、

次世代につなぐ活動をしている8団体から事例紹介がされた。コーディネーターの米山事務局長とコメントーターの水沼淑子理事を交えた、発表者による意見交換では、今日の幅広い事例紹介で、今まで気づかなかった「横浜の魅力」を再認識したことや、横浜と湘南など近隣地域との連携の重要性などがコメントされた。多彩な事例報告に、会場の参加者からも「幅広い話題が聞いて興味深かった」、「知らなかった横浜を知った」、「横浜や地域を愛する方の思いが伝わった」といった感想が寄せられた。



会場の様子 (左から、米山事務局長、水沼理事、清水靖枝氏、吉武美保子氏、池田 修氏、深沢啓子氏、山本詔一氏、菅 孝能氏、近澤弘明氏)

設立記念シンポジウム「明日につなげよう、みんなのたから 横浜の歴史的資産」
日時：2009年12月11日(金)18:30～21:00
会場：横浜市開港記念会館 講堂
主催：一般社団法人横浜歴史資産調査会(ヨコハマヘリテイジ)
協力：横浜市都市デザイン室
後援：財団法人はまぎん産業文化振興財団

基調講演「まちを楽しむ」——会長 宮村 忠

宮村 忠会長の基調講演では、日頃のヨコハマヘリテイジの活動で馴染みのある歴史的建造物とは少し視点を変え、「まちを楽しむ」というタイトルで、会長がNPO活動で取り組んでいる本所深川のまちづくりが紹介された。水路から船で街を見て災害復興を考える活動を通して、「日頃からまちを楽しんでいなければ、いざ

というときに使えない。まちづくりを難しく学習するのではなく、まず、まちを楽しんじゃおう!」という話題提起がされた。

宮村 忠会長による基調講演の様子



事例紹介:《地域の宝物》を守り、楽しみ、つなぐ活動の紹介

1. 馬車道商店街協同組合理事長 | 六川勝仁氏



早くから「歴史を生かしたまちづくり」に取り組んでいる、馬車道地区のまちづくりのこれまでの取り組みをご紹介いただいた。横浜市の認定歴史的建造物の第1号でもある日本興亜馬車道ビルの保存・再生は、その後の近代建築再生の先駆けともなっている。

2. 長屋門公園歴史体験ゾーン事務局長 | 清水靖枝氏



長屋門などの古民家を中心とした歴史体験ゾーンの運営について、オープン以来、組織化していないが自然に集まってそれぞれの能力を発揮してくれるボランティア、応援し見守ってくれる近隣など、地域に愛され地域と一緒に運営している状況を報告していただいた。

3. よこはま里山研究所NORA主任研究員 | 吉武美保子氏



これまでの「歴史を生かしたまちづくり」としてはあまりとりあげて来なかった郊外の自然についても、今回のシンポジウムでは《地域の宝物》として注目し、吉武氏にご参加いただいた。市内で見られる花や虫の写真、谷戸や田畑の風景を示しながら、横浜に残る自然は里山の営みが支えていることや、里山でのくらしや文化と都市をつなぐ取り組みをされていることをお話しいただいた。

4. BankART1929代表 | 池田 修氏



文化芸術という視点から活動を展開しているBankART1929。これまで旧富士銀行や旧横浜銀行本店別館などの歴史的建造物も活動の場として来た。現在は、日本郵船の倉庫に拠点を据え、横浜の都心部を中心に「界隈を元気にしていく」多様な文化芸術の実践やコーディネートとの取り組みと、運営の特徴を紹介していただいた。

5. 財横濱市緑の協会 都心部・山手事業所所長 | 深沢啓子氏



横浜の歴史的なイメージのひとつとして定着している山手の西洋館は、横浜市緑の協会が指定管理者となり、管理する全7館の館長とスタッフの多くが女性になって以降、来館者数を伸ばしている。館長とスタッフが次々と繰り出す季節の人気イベントや運営の知恵をお話しいただいた。

6. ドックと浦賀の歴史を愛する会 | 山本詔一氏



今回は、横浜市内だけでなく、近隣都市からも《地域の宝物》を活かす取り組みをご紹介いただいた。ペリー来航の地横須賀市浦賀には、歴史的なレンガドックが現存している。平成15年に、まちとともに発展してきたこの造船所が閉鎖。この貴重な地域の産業遺産を活用し、将来に伝えるイベントなどに取り組んでいることをお話しいただいた。

7. 邸園文化調査団 | 菅 孝能氏



近隣都市からはもうひとつ、明治期以来、財界人や文化人などの別荘が多くあった湘南地域での活動をご紹介いただいた。邸園文化調査団では、別荘地の歴史的建物と庭園を「邸園」と呼び、これが核となって形成された湘南地域の文化や景観などを守り、活用していくことに取り組まれている。

8. 横濱まちづくり倶楽部副会長 | 近澤弘明氏



最後は、横浜都心部の活性化に取り組む近澤氏に、横浜を変えていくためのインナーハーバー構想を語っていただいた。また、横濱まちづくり倶楽部からは、以前、横浜を「シティセールス」するための本として同倶楽部が作った「yokohama patchwork」をシンポジウム参加者への資料としてご提供いただいた。

「ヨコハマヘリテイジ」のご紹介

一般社団法人 横浜歴史資産調査会(通称 YOKOHAMA HERITAGE ヨコハマヘリテイジ)は、歴史的建造物に係る専門家の団体です。1988(昭和63)年に「横浜市歴史的資産調査会」として発足し、以来20年間にわたり、横浜市と連携して歴史的建造物の調査や保全活用に関する研究を進め、「歴史を生かしたまちづくり」を推進してきましたが、2009(平成21)年6月2日、横浜開港150周年を迎える年の開港記念日に、一般社団法人として新たなスタートを切りました。これまでの蓄積を活かし、歴史的資産の保全活用に関する調査研究、セミナーや見学会等の普及啓発を中心に、幅広い活動を行ってまいります。

事業内容

- 1 歴史的資産(神社・寺院、古民家、近代建築、西洋館、近代和風建築、土木産業遺構、歴史的地区)の保全と活用に関する調査研究
- 2 調査研究によって得た成果の普及啓発
- 3 歴史的建造物の修理・改修等を担当する人材の育成及び支援
- 4 歴史的建造物所有者からの相談に対する対応
- 5 行政及び関連団体との連携事業
- 6 その他設立目的遂行に必要な事業

組織

- 役員 ※平成21年度
代表理事(会長)：宮村 忠(関東学院大学教授)
理事(副会長)：吉田鋼市(横浜国立大学大学院教授)
常務理事(事務局長)：米山淳一(地域遺産プロデューサー)
- 社員 ※五十音順
稲葉和也(建築史家)
内田青蔵(神奈川大学教授)
内山哲久(近畿日本鉄道(株)東京支社)
大方潤一郎(東京大学教授)
大野 敏(横浜国立大学大学院准教授)
小沢朝江(東海大学教授)
黒田泰介(関東学院大学准教授)
坂本勝比古(神戸芸術工科大学名誉教授)
鈴木伸治(横浜市立大学准教授)
関 和明(関東学院大学教授)
高橋志保彦(神奈川大学名誉教授)
中藤誠二(関東学院大学准教授)
中村 實(東北文化学園大学教授)
西 和夫(神奈川大学工学研究所客員教授)
堀 勇良(建築史家)
水沼淑子(関東学院大学教授)

ロゴについて

開港のシンボル「象の鼻」をモチーフとしています。象の鼻地区は大きな橋の根もと、横浜開港にあたって最初に波止場が設けられた場所で、当会が早くから歴史的資産として注目し、保存と活用を手がけてきた遺構でもあります。象の鼻の波止場が多くの船を迎え入れたように、これからも開かれた団体として様々な分野と連携し、皆様のご支援とご協力のもと、歴史資産の保存活用に取り組んでいきたいという思いを込めています。

会員募集！ ヨコハマヘリテイジサポートクラブ

ヨコハマヘリテイジでは、会の活動を支えてくださる会員を募集しています。本会の主旨に賛同してくださる方であれば、どなたでもご入会いただけます。会費は、「歴史を生かしたまちづくり」に向けた会の活動に当てさせていただきます。

● 個人会員

対 象	本会の趣旨に賛同して下さる個人の方
年会費	3,000円(年度単位 4月1日から翌年3月31日)
特 典	<ul style="list-style-type: none"> ・「歴史を生かしたまちづくり 横濱新聞」最新号のお届け ・会員向けメールマガジンの発行 ・セミナー、イベント等の情報提供 ・有料セミナーの割引 ・本会発行の出版物の割引販売 ・関連施設等での優待(予定)

このほか、団体会員、賛助会員もごございます。ご入会のお問合せは事務局まで(ホームページからお申し込みいただけます)